



平成24年 岐阜県鉱工業指数 (年報)

【平成22年基準】

1 概況

| | | |
|------|-------|------------|
| 生産指数 | 99.5 | 前年比3.0%の低下 |
| 出荷指数 | 100.3 | 前年比1.5%の低下 |
| 在庫指数 | 114.4 | 前年比6.4%の上昇 |

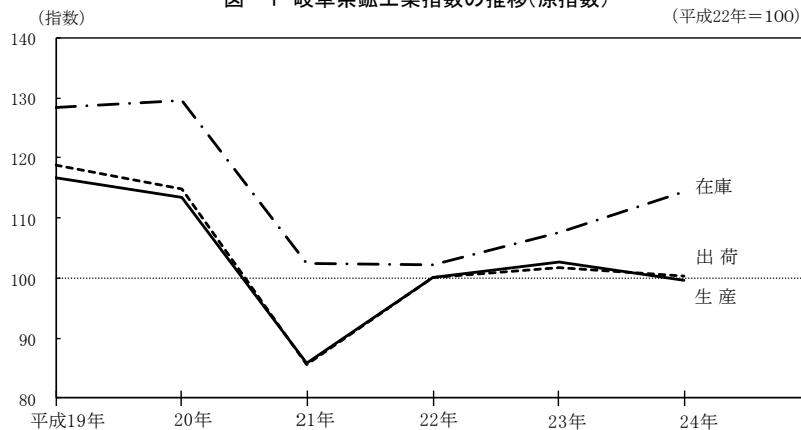
平成24年1年間の生産指数は、輸送機械工業、金属製品工業等が上昇したものの、化学工業、はん用・生産用・業務用機械器具工業等が低下したため、前年比3.0%の低下となった。

また、出荷指数は、化学工業、はん用・生産用・業務用機械器具工業等が低下したため1.5%の低下となり、在庫指数は、金属製品工業、化学工業等が上昇したため6.4%の上昇となった。(図-1)

(平成22年=100)

| 区分 | 生産 | | 出荷 | | 在庫 | |
|-------|-------|---------|-------|---------|-------|---------|
| | 指数 | 前年比 (%) | 指数 | 前年比 (%) | 指数 | 前年比 (%) |
| 平成19年 | 116.8 | 3.3 | 118.9 | 2.8 | 128.4 | 2.7 |
| 20 | 113.5 | △2.8 | 114.7 | △3.5 | 129.6 | 0.9 |
| 21 | 85.8 | △24.4 | 85.6 | △25.4 | 102.5 | △20.9 |
| 22 | 100.0 | 16.6 | 100.0 | 16.8 | 102.1 | △0.4 |
| 23 | 102.6 | 2.6 | 101.8 | 1.8 | 107.5 | 5.3 |
| 24 | 99.5 | △3.0 | 100.3 | △1.5 | 114.4 | 6.4 |

図-1 岐阜県鉱工業指数の推移(原指数)



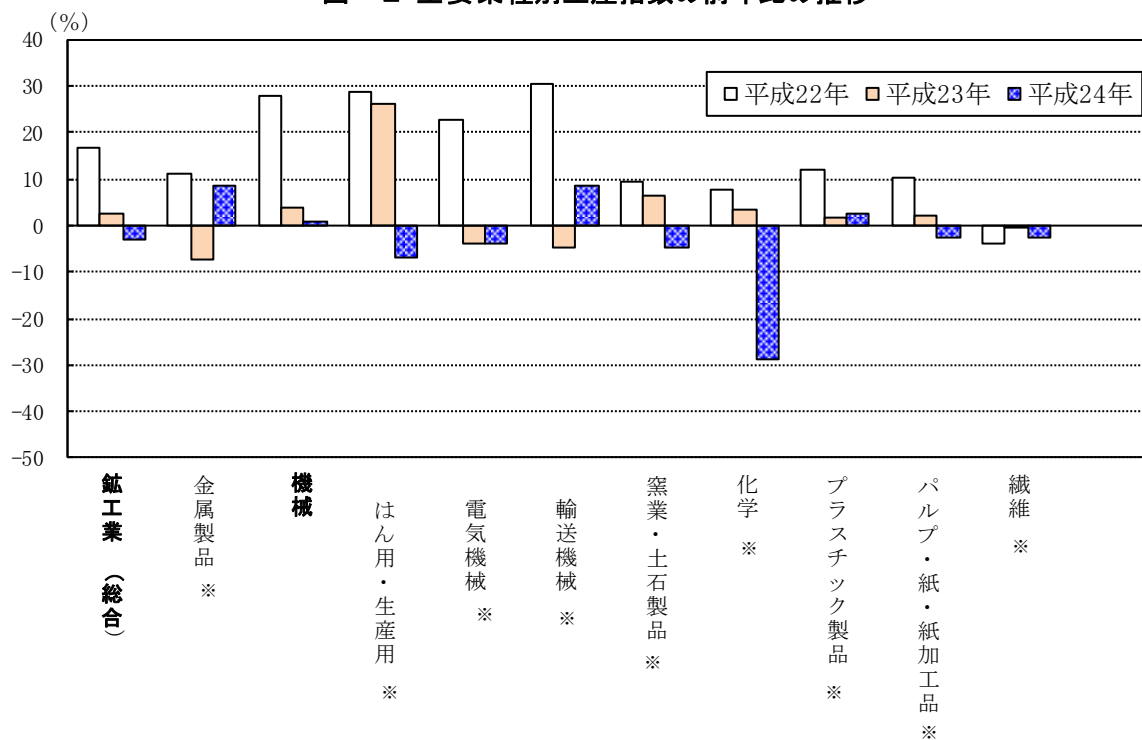
注：年指数の値は、生産及び出荷指数は月指数の平均値、在庫指数は年末値による。

2 主要業種別生産指数の前年比

主要9業種[※]の生産指数を業種別に前年と比べると、上昇したのは、輸送機械工業（前年比8.6%）、金属製品工業（同8.4%）、プラスチック製品工業（同2.5%）の3業種となった。

一方、低下したのは、化学工業（同△28.9%）、はん用・生産用・業務用機械器具工業（同△6.9%）、窯業・土石製品工業（同△4.9%）、電気機械工業（同△3.9%）、繊維工業（同△2.9%）、パルプ・紙・紙加工品工業（同△2.6%）の6業種となった。（図-2、表-1）

図-2 主要業種別生産指数の前年比の推移



3 全国、中部との生産指数の比較

平成24年の全国における生産指数は、前年比0.6%の上昇であった。
また、中部においては8.1%の上昇であった。

(平成22年=100)

| 区分 | 岐阜県 | | 全国 | | 中部(※) | |
|-------|-------|---------|-------|---------|-------|---------|
| | 生産指数 | 前年比 (%) | 生産指数 | 前年比 (%) | 生産指数 | 前年比 (%) |
| 平成19年 | 116.8 | 3.3 | 114.6 | 2.8 | 116.3 | 3.0 |
| 20 | 113.5 | △2.8 | 110.7 | △3.4 | 110.9 | △4.6 |
| 21 | 85.8 | △24.4 | 86.5 | △21.9 | 81.7 | △26.3 |
| 22 | 100.0 | 16.6 | 100.0 | 15.6 | 100.0 | 22.4 |
| 23 | 102.6 | 2.6 | 97.2 | △2.8 | 96.8 | △3.2 |
| 24 | 99.5 | △3.0 | 97.8 | 0.6 | 104.6 | 8.1 |

※「中部」とは、中部経済産業局管内5県（愛知、三重、石川、富山、岐阜）

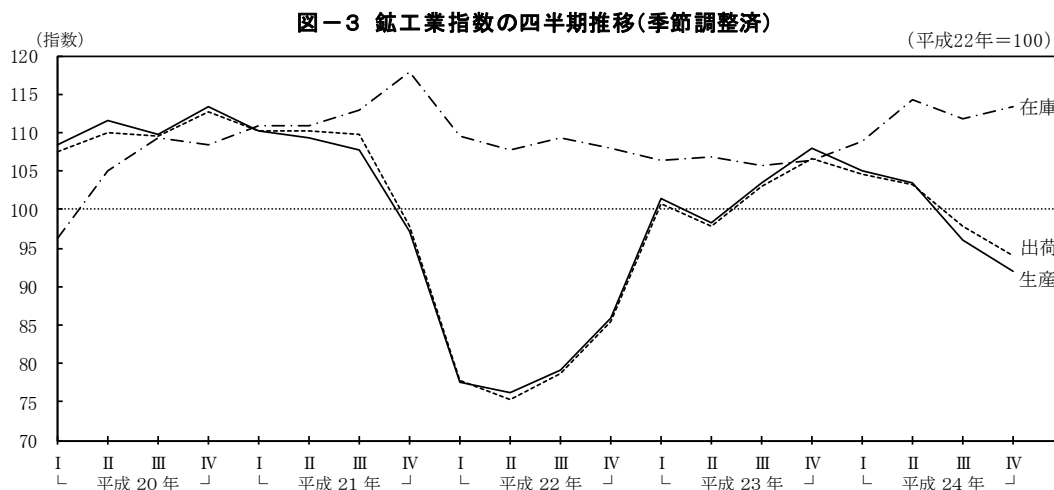
<平成24年 岐阜県鋳工業指数の詳細について>

1 鋳工業指数の四半期推移

平成24年の生産指数を四半期ごとにみると、生産指数、出荷指数とも全ての四半期において前期比より低下となった。

また、在庫指数は横ばい傾向であった。

(図-3、表-2)

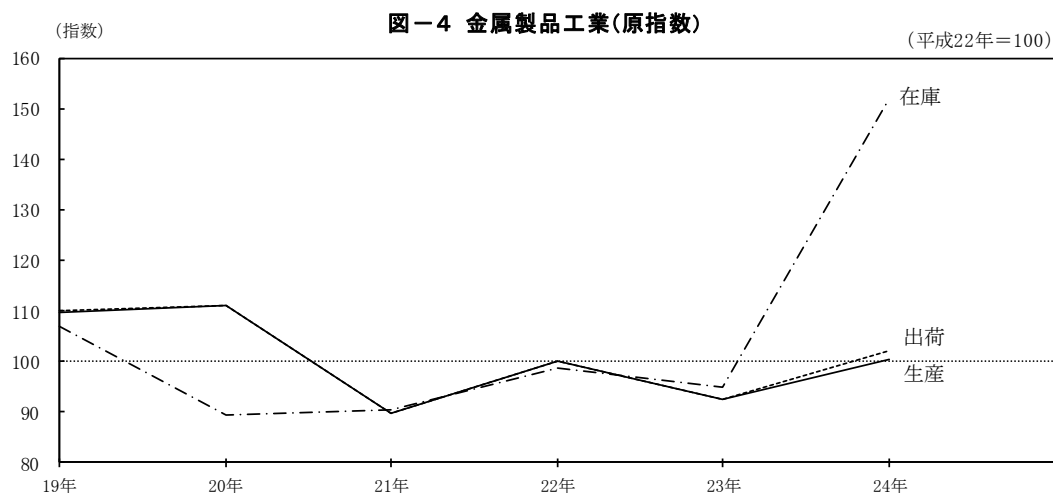


2 主要業種別指数の動向

(1) 金属製品工業

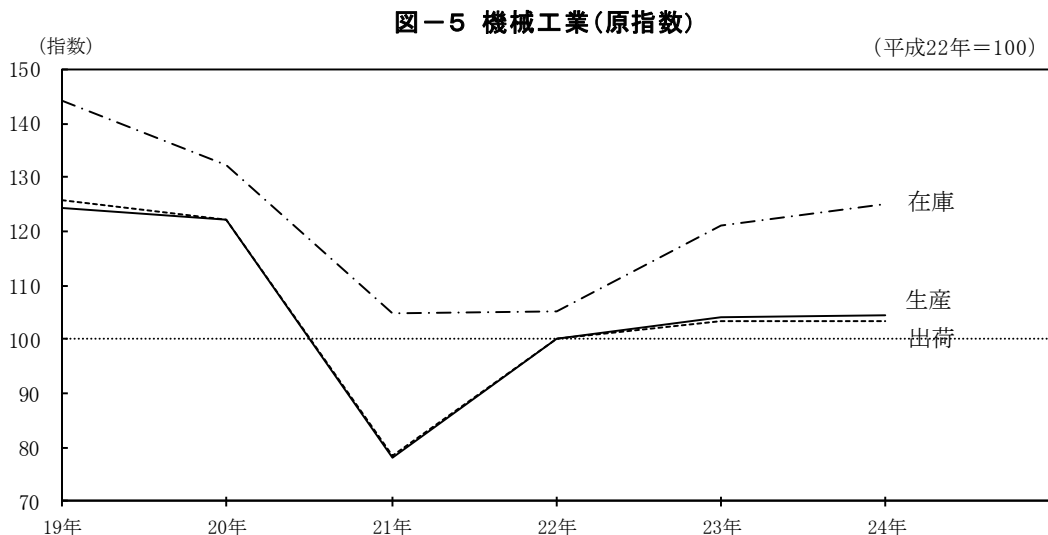
- ・生産指数は、アルミサッシ、架線金物等が減少したものの、ボルト・ナット、スチール又はステンレスシャッター等が増加したため、前年比8.4%の上昇となった。
- ・出荷指数は、ボルト・ナット、スチール又はステンレスシャッター等が増加したため、前年比10.5%の上昇となった。
- ・在庫指数は、アルミサッシ、アルミドア等が増加したため、前年比60.3%の上昇となった。

(図-4、表-1)



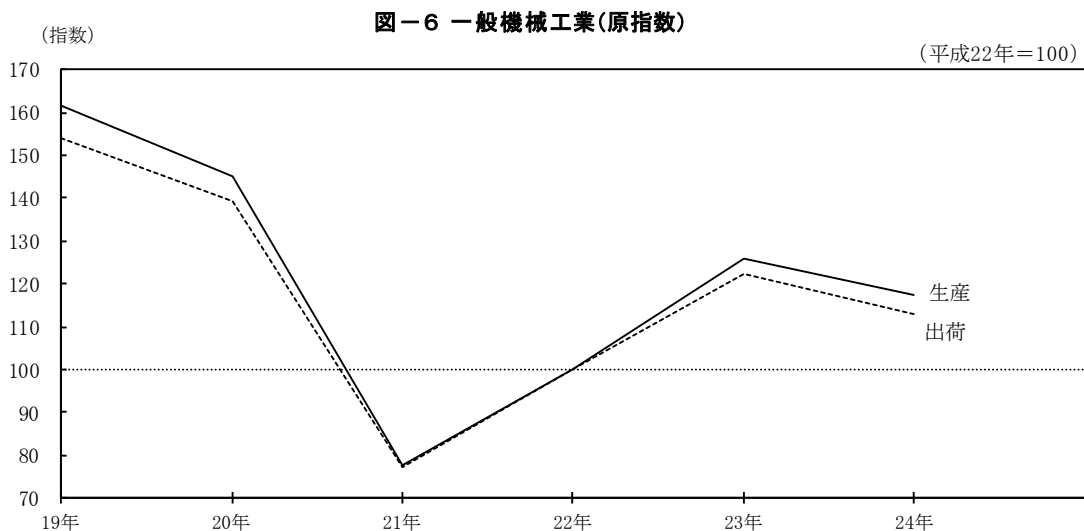
(2) 機械工業

- ・生産指数は、はん用・生産用・業務用機械器具工業、電気機械工業が低下したものの、輸送機械工業、が上昇したため、前年比0.5%の上昇となった。
 - ・出荷指数は、前年と同様となった。
 - ・在庫指数は、前年比3.3%の上昇となった。
- (図-5、表-1)



(2) -ア はん用・生産用・業務用機械器具工業

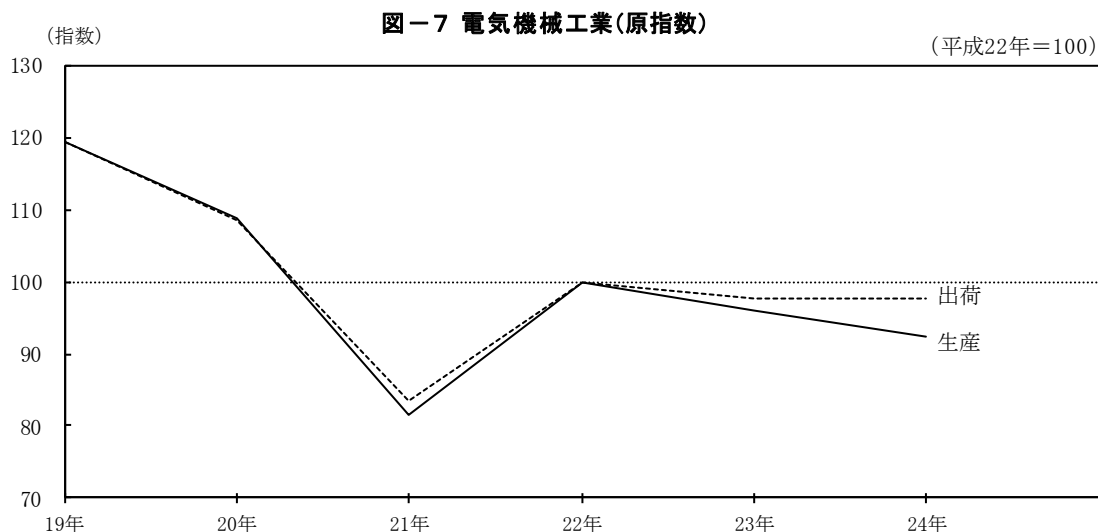
- ・生産指数は、ショベル系掘削機 (0.2m³ 未満)、材料試験機等が増加したものの、油圧機器、旋盤等が減少したため、前年比6.9%の低下となった。
 - ・出荷指数は、油圧機器、旋盤等が減少したため、前年比7.8%の低下となった。
- (図-6、表-1)



(2) -イ 電気機械工業

- ・生産指数は、開閉制御装置、水車及びその他の交流発電機が増加したものの、電子回路基板、換気扇等が減少したため、前年比3.9%の低下となった。
- ・出荷指数は、開閉制御装置、換気扇等が増加したため、前年比0.1%の上昇となった。

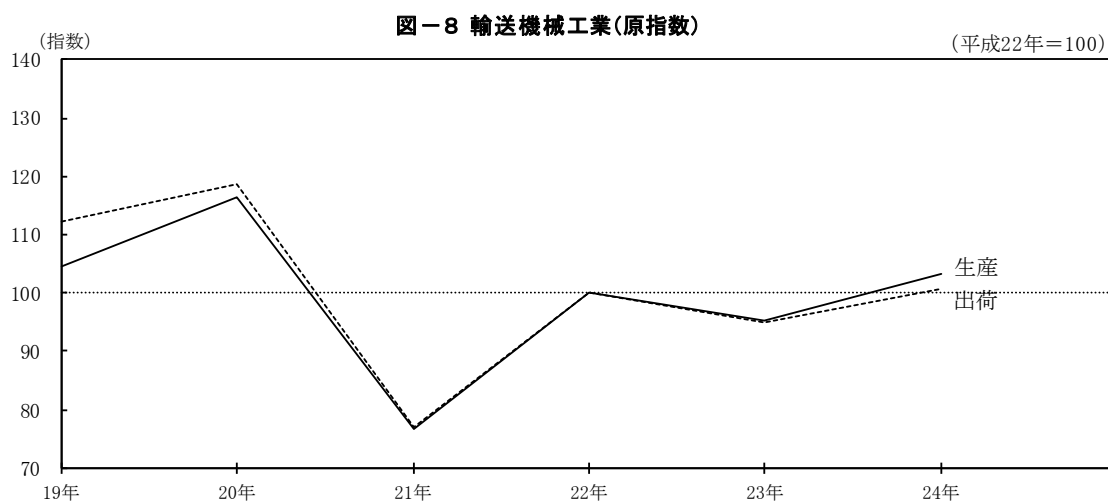
(図-7、表-1)



(2) -ウ 輸送機械工業

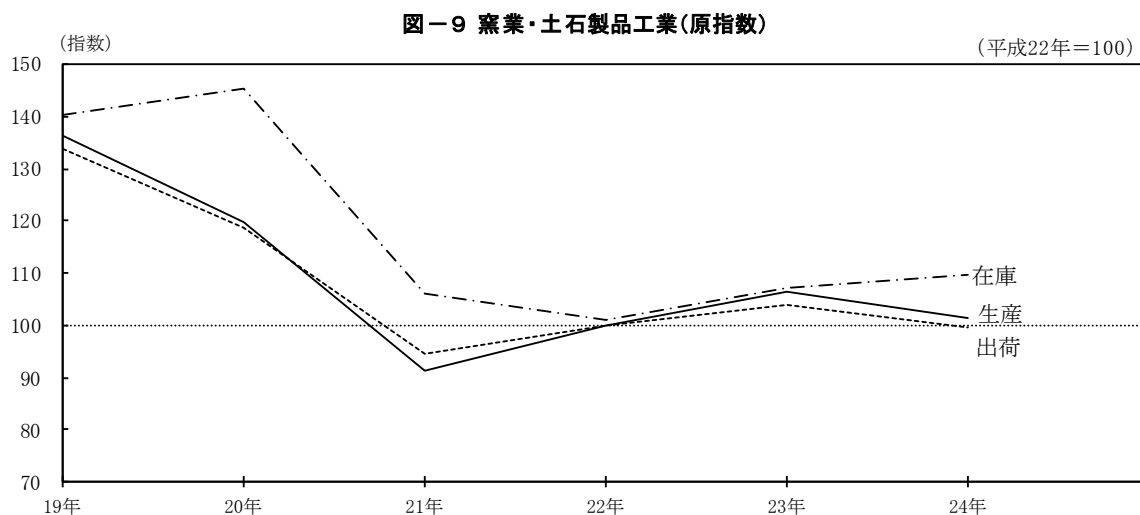
- ・生産指数は、ステアリング装置、手動式車いす等が減少したものの、乗用車ボデー、懸架制動装置部品(ショックアブソーバ)等が増加したため、前年比8.6%の上昇となった。
- ・出荷指数は、乗用車ボデー、懸架制動装置部品(ショックアブソーバ)等が増加したため、前年比5.8%の上昇となった。

(図-8、表-1)



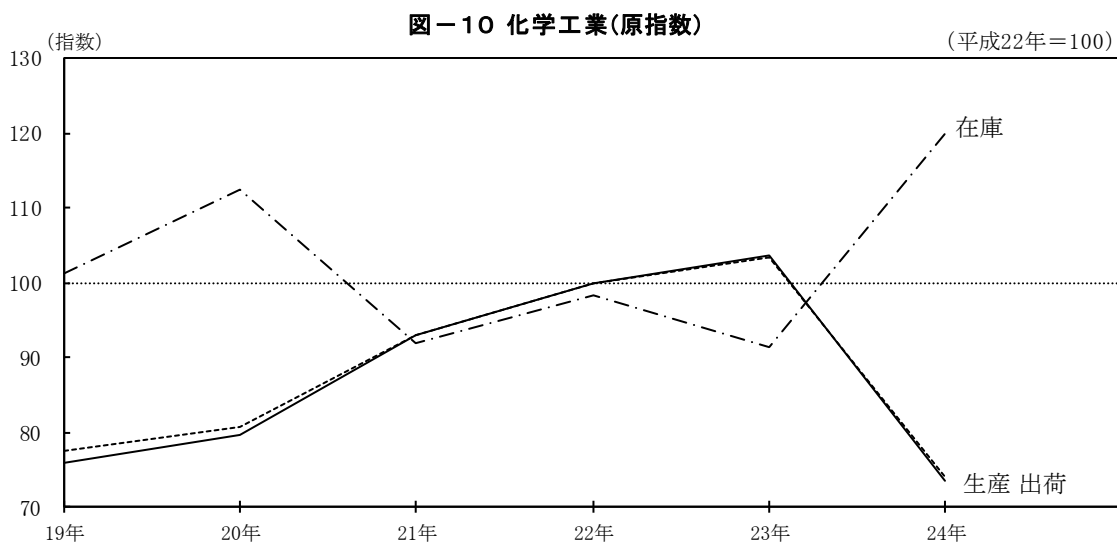
(3) 窯業・土石製品工業

- ・生産指数は、タイル（陶磁器製タイル）、ガラス短繊維製品等が増加したものの、生コンクリート、ガラス製品（容器類）等が減少したため、前年比4.9%の低下となった。
 - ・出荷指数は、生コンクリート、触媒担体・セラミックフィルタ等が減少したため、前年比4.2%の低下となった。
 - ・在庫指数は、タイル（陶磁器製タイル）、触媒担体・セラミックフィルタ等が増加したため、前年比2.3%の上昇となった。
- （図－9、表－1）



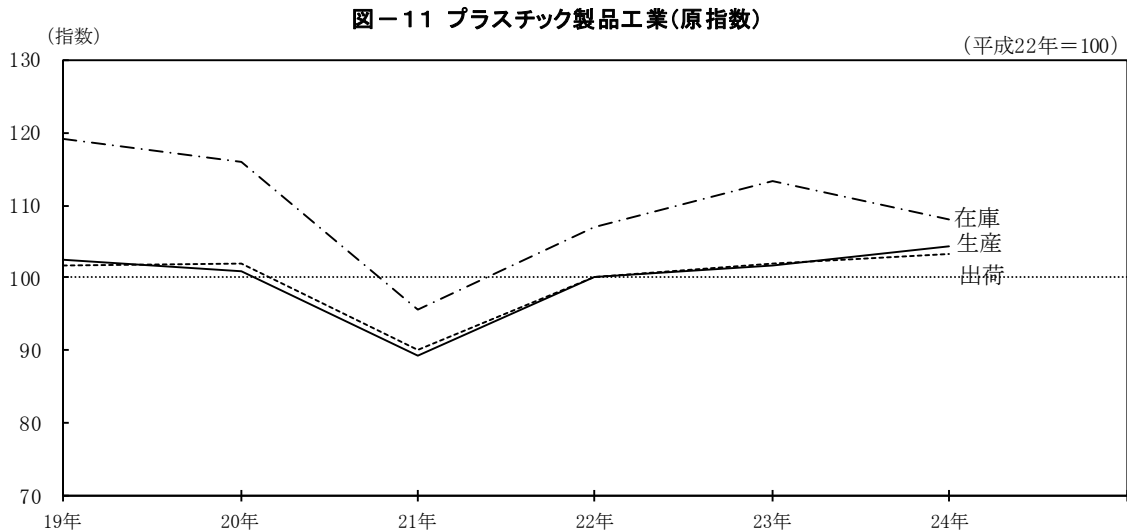
(4) 化学工業

- ・生産指数は、触媒（自動車排気ガス浄化用）が増加したものの、医薬品、活性炭等が減少したため、前年比28.9%の低下となった。
 - ・出荷指数は、医薬品、活性炭等が減少したため、前年比28.4%の低下となった。
 - ・在庫指数は、活性炭等が増加したため、前年比31.4%の上昇となった。
- （図－10、表－1）



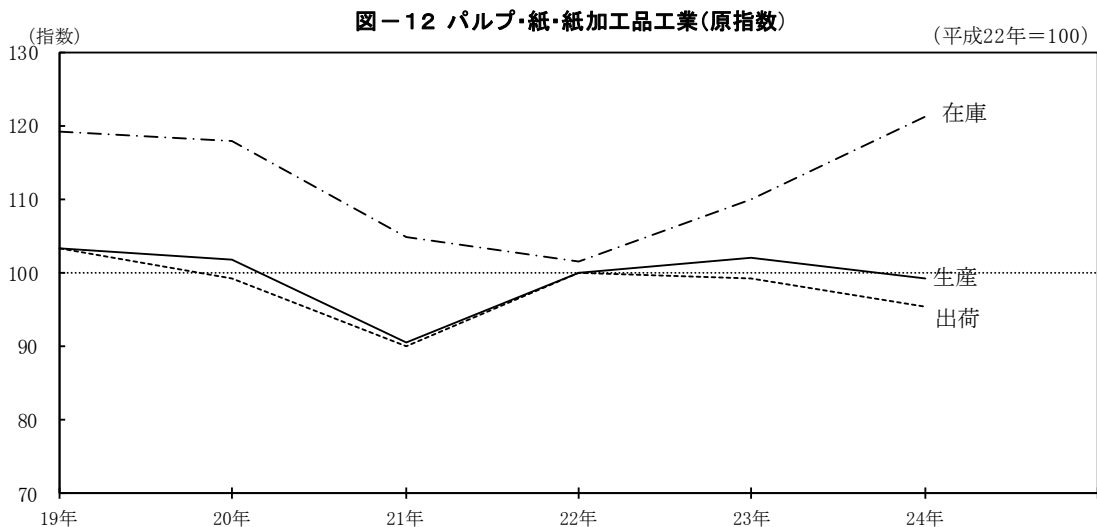
(5) プラスチック製品工業

- ・生産指数は、プラスチック製フィルム、パイプ等が減少したものの、プラスチック製機械器具部品、発泡プラスチック製品等が増加したため、前年比2.5%の上昇となった。
 - ・出荷指数は、プラスチック機械器具部品、発泡プラスチック製品等が増加したため、前年比1.4%の上昇となった。
 - ・在庫指数は、プラスチック製フィルム、プラスチック製シート等が減少したため、前年比4.7%の低下となった。
- (図-11、表-1)



(6) パルプ・紙・紙加工品工業

- ・生産指数は、包装用紙等が増加したものの、段ボール原紙、製紙パルプ等が減少したため、前年比2.6%の低下となった。
 - ・出荷指数は、製紙パルプ、段ボール原紙が減少したため、前年比3.9%の低下となった。
 - ・在庫指数は、包装用紙、雑種紙等が増加したため、前年比10.2%の上昇となった。
- (図-12、表-1)



(7) 繊維工業

- ・生産指数は、毛糸、敷物タフテッドカーペット等が増加したものの、織物製外衣、綿糸（コンデンサー糸を含む）等が減少したため、前年比2.9%の低下となった。
- ・出荷指数は、毛糸、ポリエステル短繊維等が増加したため、前年比1.7%の上昇となった。
- ・在庫指数は、毛織物ニット生地染色整理等が減少したため、前年比3.4%の低下となった。

(図-13、表-1)

